

COLUMN — 業務効率化 | 株式会社DnD

最低賃金が全国平均1,177円になった2026年10月

給与計算の手作業リスクを今すぐ点検する6つの確認点

2026年10月17日

株式会社DnD | <https://dnd-inc.jp/blog/minimum-wage-payroll-system-review.html>

令和8年度最低賃金改定の概要

厚生労働省は2026年9月3日、令和8年度の地域別最低賃金の改定額が全47都道府県で答申されたと公表しました。

- ・全国加重平均: 1,177円（前年1,121円から+56円・+5.0%）
- ・最高額: 東京都 1,280円 / 最低額: 宮城県 1,085円
- ・発効時期: 各都道府県で10月1日～12月2日の間に順次発効

中小企業に及ぼす3つの影響

影響1：時給テーブルの更新漏れリスク

Excelや帳票に時給が固定値で入力されていると、改定後に手動で更新が必要。更新を失念すると賃金不払い・労基法違反につながります。

影響2：残業・割増賃金の計算基礎の変化

基礎賃金が上がれば残業・深夜・休日の割増賃金も連動して変わります。旧単価が残っていると計算結果が正しくありません。

影響3：複数拠点・複数雇用形態の複雑化

都道府県ごとに改定額・発効日が異なります。複数拠点を持つ会社は拠点ごとに確認が必要で、管理が複雑なほど手作業でのミスリスクが高まります。

自社で今すぐ確認できる6つのポイント

#	確認すること	「いいえ」のとき生じるリスク
1	今月支払う時給・日給のうち、最低賃金を下回るものがないか確認できるか	賃金不払い・労基法違反
2	給与計算に使うExcel等で「最低賃金」を参照している箇所が明確か	改定時の更新漏れ・二重管理

# 確認すること	「いいえ」のとき生じるリスク
3 複数拠点がある場合、拠点ごとの発効日と改定額を把握しているか	拠点によっては旧額のまま運用継続
4 残業・深夜・休日手当の計算基礎単価が今回の改定に合わせて更新されているか	割増賃金の過少支払い
5 勤怠データが給与計算シートに自動で反映されているか（手入力でないか）	転記ミス・集計漏れ
6 担当者不在でも誰でも同じ手順で処理できる手順書があるか	属人化による計算ミス・停止リスク

給与計算自動化の3ステップ

1. 計算ルールの可視化: 現在の給与計算フローを文書化し、手作業の箇所と更新が必要な箇所を特定する。
2. 勤怠と給与の連動: 勤怠打刻データを給与計算シートに自動で取り込み、転記ミスと集計漏れをなくす。
3. 最低賃金の自動チェック: 改定データを取り込み、支払い前に時給・単価が基準を下回っていないか自動で警告する仕組みを作る。

株式会社DnDにご相談いただけること

業務フローの棚卸し・カスタム業務システムの開発・既存システムの点検と改善を提供しています。歩合制・複数雇用形態・独自の手当計算など、汎用ツールでは対応しきれないケースもご相談ください。

ご相談・お見積りは無料です。→ <https://dnd-inc.jp/contact.html>